

東南アジア大都市圏における都市の発展段階とインフラシステムのニーズに関する調査研究

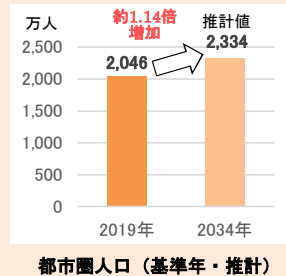
○背景と目的

本調査では、対象国・地域の発展段階に応じて必要とされるインフラシステムの特徴を明らかにすることを目的とし、東南アジア諸国から発展段階の異なる2都市圏を選定し、インフラシステム主要6分野(不動産・水・道路・鉄道・空港・港湾)における現在の事業の展開状況、および日本企業の参画可能性についての調査を行った。

○対象都市圏の状況



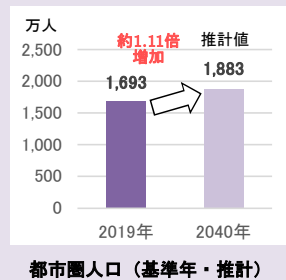
ホーチミン都市圏



引き続き人口が集中していくと予測されており、都市鉄道の建設や沿線を中心とした郊外の複合開発が進行している。新たな都市鉄道やLRTの整備も予定されており、**沿線を軸としてさらに大都市圏の形成が進むことが伺える。**

日本企業の技術を活用して取水ポンプの省エネルギー化を図った事例や、港湾物流の効率化を図る事例があるなど、今後は低炭素化の取り組みへの進出も期待される。

バンコク都市圏



都市圏全体の人口は増加するものの、**都心の人口は減少に転じるものと予測されており、今後は未利用地の活用や中心部の再開発等が課題となることが想定される。**

急速な成長・開発を背景に、自動車渋滞による大気汚染が問題となっており、環境負荷の低い交通システムへの関心が高い。また、頻発する水害を背景に、治水インフラや防災情報、土地利用規制などのニーズが考えられる。

ASEAN諸国(シンガポールを除く)の経済発展段階

経済発展段階	分類される国
後発開発途上国	ミャンマー、カンボジア、ラオス
低所得国	該当なし
低所得国	ベトナム 、インドネシア、フィリピン
高所得国	タイ 、マレーシア

(出典) 外務省開発協力白書(2019年版) DAC援助受け取り国・地域リスト